山形大学
Yamagata University

学長定例記者会見要項

日　　時：　令和５年９月７日（木）　１１：００～１１：４５

場　　所：　法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟３階）

発表事項

1．安全安心な環境で、地域の活性化に貢献するキャンパスを目指して
～小白川キャンパスで「シェアサイクル」＆「コインパーキング」のサービス提供開始～

2．体験と学びの『やまフェス！2023～つなぐちから～』～子ども・大人ともに楽しめるイベント、10 月 9 日（月･祝）小白川で初開催～

3．“大王”後藤ひろひと氏が山形大学にやってくる！～附属博物館が「嘉一ボックス」受贈記念企画展を開催～

4．山形大学附属博物館が山形大生と地域の皆さんとともに集めた「まちの記憶」を一挙公開「ななはく！2023ルーナ」を開催します！

5．社会人向け「多文化共生スキルアップ講座」を開講します
～地域や職場で外国人を受け入れるために必要な知識を学ぶ全3部構成のオンライン講座～

6．「日本百名山」で有名な深田久彌はなぜ樹氷（アイスモンスター・エビノシッポ）に造詣が深かったのか～高山植物学者・登山家の濱田（田邊）和雄との交流～

お知らせ

1．山大クラブＪｒ.で一緒にバレーボールをしよう！～週１回の練習を通して、バレーボールの楽しさに触れよう～

（参　考）

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日　時：令和５年１０月５日（木）１１：００～１１：４５

場　所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟３階）

学長定例記者会見（９月７日）発表

１．安全安心な環境で、地域の活性化に貢献するキャンパスを目指して～小白川キャンパスで「シェアサイクル」＆「コインパーキング」のサービス提供開始～

学　　長　　玉手（たまて）　英利（ひでとし）

２．体験と学びの『やまフェス！2023～つなぐちから～』～子ども・大人ともに楽しめるイベント、10 月 9 日（月･祝）小白川で初開催～

健康と学びのサポートセンター　センター長　　中西（なかにし）　正樹（まさき）

学術研究院　准教授（学士課程基盤教育院主担当）　　佐藤（さとう）　琴（こと）

学術研究院　講師（人文社会科学部主担当）

エクステンションサービス推進本部　担当教員　　石黒（いしぐろ）　志保（しほ）

地域共創STEAM教育推進センター　プロジェクト教員（講師）　　安達（あだち）　茜（あかね）

３．“大王”後藤ひろひと氏が山形大学にやってくる！～附属博物館が「嘉一ボックス」受贈記念企画展を開催～

学術研究院准教授（人文社会科学部主担当・附属博物館学芸研究員）　　小幡（おばた）　圭祐（けいすけ）

４．山形大学附属博物館が山形大生と地域の皆さんとともに集めた「まちの記憶」を一挙公開「ななはく！2023ルーナ」を開催します！

学術研究院准教授（学士課程基盤教育院主担当・附属博物館学術研究員）　佐藤（さとう）　琴（こと）

人文社会科学部人間文化コース２年 まちの記憶を残し隊　　鈴木（すずき）　琉星（りゅうせい）

人文社会科学部総合法律コース２年 まちの記憶を残し隊　　鈴木（すずき）　淳太（じゅんた）

東北芸術工科大学美術科版画コース専任講師　　結城（ゆうき）　泰介（たいすけ）

５．社会人向け「多文化共生スキルアップ講座」を開講します
～地域や職場で外国人を受け入れるために必要な知識を学ぶ全3部構成のオンライン講座～

学士課程基盤教育院長　　三上（みかみ）　英司（えいじ）

学術研究院教授（日本語教育学）　　内海（うつみ）　由美子（ゆみこ）

エクステンションサービス推進本部コーディネーター　　松田（まつだ）　陽（よう）

６．「日本百名山」で有名な深田久彌はなぜ樹氷（アイスモンスター・エビノシッポ）に造詣が深かったのか～高山植物学者・登山家の濱田（田邊）和雄との交流～

山形大学蔵王樹氷火山総合研究所 副所長　　柳澤（やなぎさわ）　文孝（ふみたか）

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和 5 年(2023 年)9 月 7 日

安全安心な環境で、地域の活性化に貢献するキャンパスを目指して

～小白川キャンパスで「シェアサイクル」＆「コインパーキング」のサービス提供開始～

【本件のポイント】

- ●小白川キャンパスでは、地域の皆様にもお使いいただこうと 8 月に既存の駐車場の一部をコインパーキングとしてオープン。9 月からは正門付近にシェアサイクル（山形市コミュニティサイクル）のサイクルポートを設置しました。
- ●地域の皆様や学生どなたでもご利用いただけます。
- ●小白川キャンパスでは、シェアサイクルやコインパーキングの提供と合わせて、キャンパス構内の車両通行制限や自転車を降りて通行する取り組みなども行っており、こうした取り組みを通じてこの小白川キャンパスを誰もが安心してゆったりくつろぐことのできる空間にしてまいります。

【概要】

山形大学小白川キャンパスは、将来ビジョンに掲げる「つなぐちから。山形大学」をキーワードに、多様な人々が集い、安全安心な環境でのびやかに活動する「コモンズ」として、キャンパスのサービス機能を拡張し、様々なパートナーと共に地域の活性化に貢献することを目標の一つに掲げ、その一環でグラウンドと多目的グラウンド（野球場）をリニューアルし、様々な事業を進めております。

この 8 月、大学の駐車場の一部を地域の皆様にも共有し、広く活用いただきたいという目的で、キャンパス野球場西側にコインパーキングを整備いたしました。大学イベントのほか日常利用など、どなたでもお使いいただける駐車場となっています。

さらに小白川キャンパス正門近くには、9 月から「山形市コミュニティサイクル 10 台とサイクルポート 20 台」を設置し、ちょっとしたお出かけにも気軽に自転車をご利用いただけるようになりました。また、カーボンニュートラルの実現に向け、10 月に学生や教職員向けの「カーシェアリング」の導入も計画しております。

現在、小白川キャンパスでは車両の構内通行をできるだけ制限し、自転車も降りて通行する取り組みを徹底するなど誰もが安心して行き交うことのできるキャンパスづくりを目指しており、学生や地域の皆様にもゆったりくつろいでいただける空間整備を進めております。

【シェアサイクル（山形市コミュニティサイクル）】

所 在 地：山形大学小白川キャンパス（山形市小白川町 1-4-12）
正門入って右側
設置概要：シェアサイクル 10 台及びサイクルポート 20 台分
利用料金：15 分毎 50 円　24 時間上限 1,600 円　1 日 1,000 円
https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/information/info/20230904/

シェアサイクル
（山形市コミュニティサイクル）

【山形市コミュニティサイクルパンフレット】
https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/009/995/pamphelet.pdf

（裏面に続く）

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【コインパーキング】

所 在 地：山形大学小白川キャンパス（山形市小白川町1-4-12）
野球場西側駐車場
駐車台数：43台 ゆったりとした駐車スペース
（駐車可能台数が増える場合もあります）
駐車料金：１時間１００円 ２４時間まで４００円
（オープニングキャンペーン価格）
営業時間：２４時間営業
（ただし、冬季は積雪により利用中止することがあります。）
https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/information/info/202308182/

コインパーキング

お問い合わせ
・コインパーキング
小白川キャンパス運営支援課施設担当
023-628-4113 yu-kj-sisetu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
・シェアサイクル
小白川キャンパス総務課総務担当
023-628-4744 yu-kjsoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学 Yamagata University

令和5年（2023年）9月7日

“大王”後藤ひろひと氏が山形大学にやってくる！

～附属博物館が「嘉一ボックス」受贈記念企画展を開催～

【本件のポイント】

- このほど、山形市出身で吉本興業所属の劇作家・後藤ひろひと氏から、郷土史家の祖父・後藤嘉一氏の遺品が山形大学附属博物館に寄贈されました。これを記念して企画展「「オットセイ」のブロニー君と後藤嘉一と後藤ひろひと」を開催します。
- 企画展では、お二人の活動の軌跡を紹介するほか、山形の歴史に関する定説を覆した、本学教員による最新の学術研究の成果が盛り込まれています。
- 後藤ひろひと氏を山形大学にお招きしてのトークセッションなど、さまざまな関連企画も開催します。

当館所蔵の結髪土偶と初対面する“大王”こと後藤ひろひと氏

【概要】

山形市の薬師公園の隣に位置する柏山寺には、サーカス団の「オットセイ」、ブロニー君の墓があります。かねてより巷間では、ブロニー君が明治44年（1911年）5月8日の山形市北大火で焼け死んだという説が広く知られていました。ところが、山形大学附属博物館の学芸研究員をつとめる小幡が、ブロニー君が山形市北大火で死んだのではなく、昭和2年（1927年）9月11日から10月20日に山形市で開催された全国産業博覧会の期間中に命を落としたことを初めて解明し、研究成果がこのほど学術誌『サーカス学』第4号に掲載されました。

山形県にて演劇プロジェクト「王立ブロニー・ショー」を立ち上げるなど、ブロニー君にかねてより関心を持っていた山形市出身の劇作家・後藤ひろひと氏は、このことをきっかけに小幡と交流を開始し、御祖父で郷土史家として知られる後藤嘉一氏の遺品（＝「嘉一ボックス」）が山形大学附属博物館に寄贈されることになりました。今後、小幡が担当している人文社会科学部の専門科目「課題演習（地域歴史史料）」でその内容を分析予定です。

そこで山形大学附属博物館では、「嘉一ボックス」の受贈記念といたしまして、ブロニー君に関する最新の研究成果と、後藤嘉一・ひろひと両氏の活躍を紹介する企画展を、全国産業博覧会の会期に合わせて開催する運びとなりました。後藤ひろひと氏をお招きしてのトークセッションなど、さまざまな関連企画も目白押しです。

【開催要項】

・名　　称：「オットセイ」のブロニー君と後藤嘉一と後藤ひろひと
・会　　期：令和5年（2023年）9月11日（月）～10月20日（金）
・開館時間：9:30～17:00　※ただし、9月18日（月・祝）・10月1日（日）・10月9日（月・祝）は10:00～16:00、9月21日（木）・10月13日（金）は9:30～14:00
・休 館 日：9月16日（土）・17日（日）・19日（火）・22日（金）・23日（土）・24日（日）・30日（土）・10月7日（土）・8日（日）・14日（土）・15日（日）
・入 館 料：無料
・会　　場：山形大学附属博物館
・関連企画：再現！全国産業博覧会／“王立ブロニー学会”創設記念シンポジウム／ほか（詳細はチラシを参照）

――――――――――――――――――

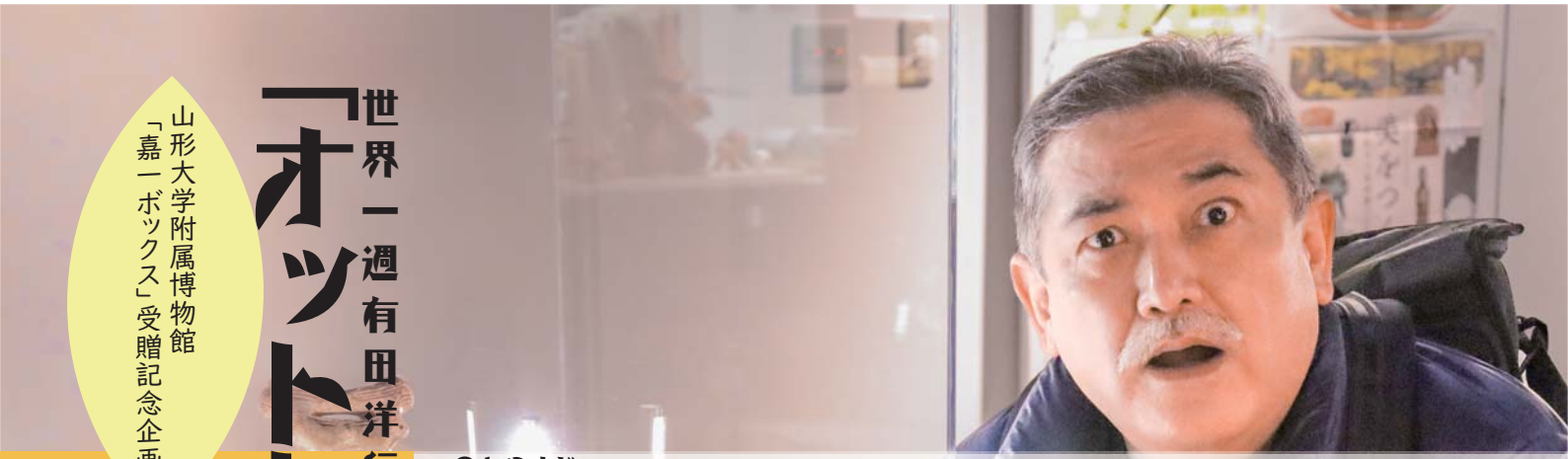
・主　　催：山形大学附属博物館
・共　　催：山形アーカイブ実行委員会・山形大学人文社会科学部「課題演習（地域歴史史料）」
・後　　援：山形新聞社
・協　　力：吉本興業株式会社・山形伝統芸能振興株式会社（やまがた紅の会）・サーカス学会・柏山寺
・助　　成：令和5年度文化庁 Innovate MUSEUM 事業

お問い合わせ
学術研究院准教授（人文社会科学部主担当・附属博物館学芸研究員）　小幡圭祐
メール：obata@human.kj.yamagata-u.ac.jp

世界一週有田洋行会「オットセイ」のブロニー君と

新聞記者 後藤嘉一と後藤ひろひと

山形大学附属博物館「嘉一ボックス」受贈記念企画展



●あらすじ

1927年(昭和2)9月11日から10月20日にかけて、山形市が主催で全国産業博覧会というイベントが催されました。会期中、薬師公園にテントを張っていた「世界一週有田洋行会」というサーカス団の「オットセイ」・ブロニー君が神業を披露し、市民を魅了。しかし、会期終盤、不幸にもブロニー君は山形の地で命を落とすことに・・・それから時が過ぎること90年あまり。薬師公園の隣、柏山寺にあるブロニー君の墓について調べていた“大王”こと劇作家の後藤ひろひとは、ひょんなことから祖父・嘉一の遺品の入ったデコポンのダンボール箱の中に全国産業博覧会のチケットを発見！ 1927年当時、嘉一は『夕刊新山形』の社会部の記者をしていたのでした。ひろひとは、ダンボール箱＝「嘉一ボックス」を手掛かりに、ブロニー君と嘉一の関係を探る時間旅行へと出発します。果たして嘉一はブロニー君に出会っていたのか！？ 不思議でちょっと可笑しなお話のはじまりはじまり・・・

入館無料

2023年9月11日(月)～10月20日(金)

開館時間： 9:30 ～ 17:00
（ただし、9/18（月・祝），10/1（日），10/9（月・祝）は10：00～16:00、9/21（木），10/13（金）は9:30～14:00）

休館日： 9/16（土），17（日），19（火），22（金），23（土），24（日），30（土），10/7（土），8（日），14（土），15（日）

会場： 山形大学附属博物館

主催： 山形大学附属博物館

共催： 山形アーカイブ実行委員会
山形大学人文社会科学部「課題演習（地域歴史史料）」

後援： 山形新聞社

協力： 吉本興業株式会社
山形伝統芸能振興株式会社（やまがた紅の会）
サーカス学会
柏山寺

助成： 令和5年度文化庁 Innovate MUSEUM 事業
地域の記憶「共創」アーカイブ事業

文化庁

山形大学附属博物館
TEL 023-628-4930
FAX 023-628-4668
E-mail
yu-hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
〒990-8560
山形県山形市小白川町1丁目4-12
人文社会科学部1号館1階

使用写真　上段：後藤ひろひと
中段：有田洋行会ちらし掲載の「オットセイ」個人蔵
下段：1927年の後藤嘉一『後藤嘉一著作集』第2巻

展示構成

1.「オットセイ」のブロニー君

従来、ブロニー君は1911年(明治44)の山形市北大火によって焼け死んだという話が巷間に伝わっていましたが、さまざまな調査の結果、1927年(昭和2)の全国産業博覧会のために山形に来ていたことがわかりました。日本のサーカスにおけるオットセイの登場や、ブロニー君の所属していた有田洋行会について解説しつつ、ブロニー君の足跡を紹介します。また、全国産業博覧会と附属博物館の意外なつながりについても紹介します。

2.後藤嘉一と後藤ひろひと

ブロニー君が山形にいたときに新聞記者をつとめ、のちに郷土史家として知られるようになる後藤嘉一と、嘉一の孫で劇作家の後藤ひろひと氏について、それぞれの活躍と2人の意外な共通点、山形との関係について紹介します。

3.「嘉一ボックス」

2023 年に後藤ひろひと氏から御祖父の遺品が寄贈され、今後学生が整理を行う予定になっています。それに先駆け、「嘉一ボックス」の受け入れの経緯を紹介するとともに、嘉一とブロニー君の関係にも迫ります。

関連企画　すべて申込不要・無料

❶ 再現！全国産業博覧会　会場：やまがたクリエイティブシティセンターQ1（山形市本町1-5-19）

1927年の全国産業博覧会では山形市の産業を全国に紹介するとともに、日本全国の製品・産物を一堂に集め、審査員を立てて品評を行いました。山形市内の会場に設けられたパビリオンでさまざまな展示を行ったほか、第一会場である第一小学校（現やまがたクリエイティブシティセンターQ1）では「山形芸妓」の舞踊、そして薬師公園では世界一週有田洋行会のサーカスが披露されていました。山形中心市街地で9月16日(土)～18日(月・祝)に山形アーカイブ実行委員会が開催する「ななはく！」で、当時の会場を再現したフォトスポットを設けるほか、出し物を再現します。

◆フォトスポット
9/16(土)～17(日)10:00～18:00、18(月・祝)10:00～17:00（Q１前庭）
◆サーカス「どん亀座」(亀田雪人、橋本フサヨ)公演
9/17(日)13:00～、15:00～　（Q１前庭）
◆山形芸妓(菊弥)・やまがた舞子(すみれ)演舞
9/18(月・祝)13:00～、15:00～　（Q１イベントスペース仮設舞台）

亀田雪人さん

菊弥さん

すみれさん

❷ “王立ブロニー学会”創設記念シンポジウム

会場：山形大学人文社会科学部301教室

10/1(日)13:00～15:00
（先着250名）

“大王”後藤ひろひと氏に山形大学にお出ましいただき、ブロニー君の研究者と本展示にまつわるトークセッションを行います。“大王”からのビッグなサプライズがあるかも！？

❸ ここがイチオシ！ギャラリートーク

会場：山形大学附属博物館展示室

10/9(月・祝)
11:00～、14:00～
（各回15分程度）

企画展担当者が見どころを中心にに展示解説を行います。

❹ 濃厚ギャラリートークとブロニー君のおはかまいり

会場：山形大学附属博物館展示室＆柏山寺

10/19(木)10:00～12:00
（先着15名）

企画展担当者によるディープな展示解説を行ったあと、柏山寺（山形市薬師町2-12-32）にあるブロニー君の墓に赴き花を手向けます。当日は展示室からスタートし、柏山寺にて現地解散となります。

スケジュール

○9:30～17:00開館　☆10:00～16:00開館　※9:30～14:00開館　❶～❹関連企画

	日		月		火		水		木		金		土	
9月			11	○	12	○	13	○	14	○	15	○	16	休館 ❶
	17	休館 ❶	18	☆ ❶	19	休館	20	○	21	※	22	休館	23	休館
	24	休館	25	○	26	○	27	○	28	○	29	○	30	休館
10月	1	☆ ❷	2	○	3	○	4	○	5	○	6	○	7	休館
	8	休館	9	☆ ❸	10	○	11	○	12	○	13	※	14	休館
	15	休館	16	○	17	○	18	○	19	○ ❹	20	○		

アクセス

●公共交通機関
・JR山形駅前から「ベニちゃんバス東くるりん東原町先回りコース」乗車「山大前」下車(約9分)、徒歩2分
・JR山形駅前から「山形県庁」行きバスで「山形南高前山大入口」下車(約6分)、徒歩7分
●自家用車　駐車場は利用できません。ご面倒をお掛けしますが、最寄りのコインパーキングをご利用ください。

山形大学附属博物館　TEL 023-628-4930　FAX 023-628-4668
E-mail yu-hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
〒990-8560　山形県山形市小白川町１丁目４-１２　人文社会科学部１号館１階

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和5年（2023年）9月7日

山形大学附属博物館が山形大生と地域の皆さんとともに集めた「まちの記憶」を一挙公開

「ななはく！2023ルーナ」を開催します！

山形大生によるインタビュー風景

七日町の商店の広告を印刷してきた石版（東北芸術工科大学美術科版画コース所蔵）

【本件のポイント】

- 山形大学附属博物館は、2022年から「地域の記憶「共創」アーカイブ」事業をスタートさせました。その成果の公開と、「記憶」のさらなる収集・蓄積をすすめるためのイベント「ななはく！2023ルーナ」を9月16～18日に七日町で実施します。
- 2023年3月に結成した学生サークル「まちの記憶を残し隊」がオリジナル企画「写真で“山形”タイムトラベル！？」を実施します。
- 東北芸術工科大学美術科版画コースが所蔵している、明治後期～昭和30年代に山形市七日町の商店などのチラシや商品ラベルを印刷した石版の印刷体験ができる「七日町石版プロジェクト－石の記憶－」などもあります。

【開催概要】（詳細はチラシをご確認ください・参加無料）

第1会場：N-GATE

① 展示「七日町の過去・現在・未来」その１・「思い出マップをつくろう」
② 「その場でアーカイブ」＆「古文書長屋リターンズ」

第２会場：やまがたクリエイティブシティセンターQ１

〔2－B〕シアタースペース　「まちの記憶を残し隊」企画「写真で“山形”タイムトラベル！？」
〔2－C〕イベントスペース　展示「七日町の過去・現在・未来」その２
〔2－D〕シングルキッチン　合同会社AMANE・山形アーカイブ実行委員会共同企画「でじきおプロジェクトinななはく！」
〔2－E〕ツインキッチン　七日町石版プロジェクト－石の記憶－

第３会場：山形市中央公民館

① 発表！わたしたちが伝えたいまちの記憶By「まちの記憶を残し隊」　9/16（土）10:00～12:00　4階大会議室
② ななはく！に物申す（ハイブリット）　9/16（土）15:00～17:00　５階研修室２
③ まちの記憶を聞く会　9/18（月・祝）10:30～11:30　５階視聴覚室
話者：寿虎屋酒造株式会社代表取締役社長 大沼 幹雄さん

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

特別企画

① 「残し隊」最高顧問が徹底解説！「山形五堰」まちあるき　9/17（日）10:00〜12:00

② 再現！全国産業博覧会

・フォトスポット（Q１前庭）全期間

・サーカス「どん亀座」公演　9/17（日）13:00〜、15:00〜　（Q１前庭）

・山形芸妓・やまがた舞子演舞　9/18（月・祝）13:00〜、15:00〜　（Q1イベントスペース仮設舞台）

③ けっぱつちゃんねる

写真や記憶を残す取り組みに関する公開放送（18時以降配信予定・詳細は「ななはく！HP（https://cherry.yum-archives.net/nanahaku/）」に）

④企画展「「オットセイ」のブロニー君と後藤嘉一と後藤ひろひと」

9/18（月・祝）10:00〜16:00　山形大学附属博物館

◆ボローニャ市（いち）

第1会場のN-GATE、第2会場のQ1をまわって、七日町の飲食店で食事をしてスタンプを集めるとボローニャ大学グッズもしくは山形大学グッズがもらえます。（先着100名様）

引換期間：9/16（土）〜19（火）

引換場所：N-GATE１階　街なか案内所

【お問い合わせ】

山形アーカイブ実行委員会事務局　山形大学附属博物館　佐藤琴

電　話：023-628-4930

メール：nanahaku.yamagata@gmail.com

【主催等】

主催：山形アーカイブ実行委員会

共催：山形まちづくり株式会社・山形大学附属博物館

協力：合同会社AMANE・東北芸術工科大学美術科版画コース・山形大学地域共創STEAM教育推進センター

助成：令和５年度文化庁Innovate MUSEUM事業

お問い合わせ
学術研究院准教授　佐藤琴（附属博物館　学芸研究員）
TEL　023-628-4930　　メール　koto-s@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学附属博物館と山大生が組織する「まちの記憶を残し隊」が
まちの皆さんと一緒に収集した地域の「記憶」を一挙公開！

ななはく！2023 ルーナ

まちの記憶市（いち） vol. 3

9/16 SAT ▸ 18 MON

特別企画も盛りだくさん！詳細は裏をチェック！

第1会場: N-GATE1階レンタルスペース /山形市七日町1-1-1
第2会場: やまがたクリエイティブシティセンターQ１ /山形市本町1-5-19 （山形市立第一小学校旧校舎）
第３会場: 山形市中央公民館 /山形市七日町1-2-39 （アズ七日町）

入場・参加無料

ななはく！の最新情報はこちらでチェック！

001-003-00422 山形アーカイブ

第1会場：N-GATE 山形市七日町1-1-1

9/16（土）10:00〜18:00、9/17（日）10:00〜18:00、9/18（月・祝）10:00〜17:00

● 展示「七日町の過去・現在・未来」その１ ＆「まちの記憶を残し隊」企画「思い出マップをつくろう」

「まちの記憶を残し隊」が収集した、移り変わる七日町の風景やそこで生きる人々の証言を展示します。また、来場者がマップにまちの飲食店の思い出を書き込む参加型企画を行います。

●「その場でアーカイブ」＆「古文書長屋リターンズ」

皆さんが残したいまちの記憶、今回はまちの飲食店を写した写真などをお持ちください。その場でデジタルカメラによる撮影を行い、データを山形大学附属博物館で大切に保存します。また、家にある古文書の保管などについてご相談にのります。

第2会場：やまがたクリエイティブシティセンターQ1 山形市本町1-5-19（山形市立第一小学校旧校舎）

9/16（土）10:00 〜 18:00、9/17（日）10:00 〜 18:00、9/18（月・祝）10:00 〜 17:00

[2−B] シアタースペース

●「まちの記憶を残し隊」企画「写真で“山形”タイムトラベル!?」

「現在の写真も未来の資料になることを伝えたい！」そんな「残し隊」が企画したのは…「残し隊」が収集した写真と「山形アーカイブ」の絵葉書を使ったフォトスポット！　ミニチュアフォトスポットでは、まちの移り変わりを体験できます！

[2−C] イベントスペース

● 展示「七日町の過去・現在・未来」その２

Q1（旧山形市立第一小学校）や山形芸妓の歴史を展示で解説します。また、「まちの記憶を残し隊」が 2023 年に収集した、まちの人びとのインタビューを上映します。

[2−D] シングルキッチン

● 合同会社AMANE・山形アーカイブ実行委員会共同企画「でじきおプロジェクト in ななはく！」

古写真からスマホに入ったデジタルの記憶＝「でじきお」まで、地域の日常の記録・記憶の連続性と広がり、未来へ開かれる可能性を体験できます！

[2−E] ツインキッチン

● 七日町石版プロジェクト−石の記憶−

明治後期〜昭和 30 年代に山形市七日町の商店などのチラシや商品ラベルを印刷した石版（東北芸術工科大学美術科版画コース蔵）の印刷体験と展示をします。

第3会場：山形市中央公民館 山形市七日町1-2-39（アズ七日町）

● 発表！わたしたちが伝えたいまちの記憶 by「まちの記憶を残し隊」

9/16（土）10:00 〜 12:00　４階大会議室

発足から現在まで私たちが残してきたまちの記憶と伝えることの楽しさを皆さんにお話しします！

● まちの記憶を聞く会

9/18（月・祝）10:30 〜 11:30　５階視聴覚室

寿虎屋酒造株式会社の代表取締役社長・大沼幹雄さんに、会社の歴史やまちとの関わりについてご講演いただきます。大沼さん秘蔵の８ミリフィルムの映像も初公開します！

● ななはく！に物申す（ハイブリッド）

9/16（土）15:00 〜 17:00　５階研修室２

ななはく!と「山形アーカイブ」に関心のある方お集まりください！より良いアーカイブにしていくための意見交換を行います！（オンライン参加の方は右の QR コードから 9/15 までにお申し込みください）

主 催：山形アーカイブ実行委員会　共 催：山形まちづくり株式会社・山形大学附属博物館
協 力：東北芸術工科大学美術科版画コース・合同会社 AMANE・山形大学地域共創 STEAM 教育推進センター
助 成：令和5年度文化庁Innovate MUSEUM事業

001-002-00011 山形アーカイブ

お問い合せ：山形アーカイブ実行委員会 nanahaku.yamagata@gmail.com / ななはく!特設サイト https://cherry.yum-archives.net/nanahaku/

特別企画

●「残し隊」最高顧問が徹底解説！「山形五堰」まちあるき

9/17（日）10:00 ～ 12:00

「まちの記憶を残し隊」最高顧問の小幡准教授が、江戸時代から山形市内を流れる用水路「山形五堰」を「山形アーカイブ」を使ってご案内します。参加希望の方は 9:50 までに第 1 会場の N-GATE にお越しください。2 時間程度で「山形五堰」に関するスポットを巡ったあと、N-GATE で解散となります。

● けっぱつちゃんねる

けっぱつちゃん（山形大学附属博物館学芸研究員・佐藤琴）がゲストを迎えて写真や記憶を残す取り組みについて公開放送をします！（18 時以降配信予定・詳細は「ななはく！特設サイト」をご覧ください）

● 企画展「「オットセイ」のブロニー君と後藤嘉一と後藤ひろひと」

9/18（月・祝）10:00 ～ 16:00

山形大学附属博物館で開催中の企画展をご覧いただけます。

● 再現！全国産業博覧会

会場である Q1 の建物は昭和 2 年 (1927) に建設された山形県初の鉄筋コンクリート造の学校建築で、当初は全国産業博覧会会場として使用されました。「山形アーカイブ」を活用したフォトスポットを設けるほか、博覧会の催しの一部を再現します。

◆ フォトスポット

9/16（土）10:00 ～ 18:00、9/17（日）10:00 ～ 18:00、9/18（月・祝）10:00 ～ 17:00（於：Q1 前庭）

◆ サーカス「どん亀座」公演

9/17（日）13:00 ～、15:00 ～（於：Q1 前庭）

◆ 山形芸妓・やまがた舞子演舞

9/18（月・祝）13:00 ～、15:00 ～（於：Q1 イベントスペース仮設舞台）

ITALIA
Bologna Fair
Stamp Rally

同時開催

山形大学附属博物館が交流協定を締結している いち

イタリア ボローニャ市 スタンプラリー

「ななはく！」2 つのメイン会場と七日町の飲食店 1 店、合計 3 つのスタンプを集めると先着 100 名様にもれなくイタリア・ボローニャ直送グッズをプレゼント！山形大学グッズもあります！

参加飲食店：フラム、タリーズコーヒー、庄司屋、いつもの場所、Classic Café LiFE、嘉ちゃん、パーキングカフェ

景品引換所：N-GATE 1 階 街なか案内所

景品引換期間：9月16日(土)～20日(水)10時～17時

The network of Museums and Collections of the University of Bologna
X
Yamagata University Museum

STAMP 第1会場 N-GATE

STAMP 第2会場 Q1

STAMP 飲食店

※飲食ご利用の方へスタンプ押印

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和5年（2023年）9月7日

社会人向け「多文化共生スキルアップ講座」を開講します

～地域や職場で外国人を受け入れるために必要な知識を学ぶ全3部構成のオンライン講座～

【本件のポイント】

- 増加する外国人住民とともに地域社会を構築していくために必要な、異文化を理解するための知識や考え方、日本語を母語としない外国人と日本語でコミュニケーションをする方法などについて学ぶ講座。
- 「第1部 共生のための異文化理解」、「第2部 外国人から見る日本語」、「第3部 日本語力アップ」の全3部で構成する。各部の単体受講も可能。
- 全ての講義をオンラインで配信し、内容により事前収録で配信し受講生の好きな時間に視聴できる「オンデマンド型」と、Zoomミーティングを利用した「リアルタイム型」で行う。

【概要】

日本は人口が減少しています。また、山形県の人口減少率は全国第4位で、他の都道府県より速いスピードで人口が減少していると言えます。一方、コロナ禍が収束し、来日する外国人が増えています。それは旅行者だけではありません。中長期で日本に滞在し、定住しようという外国人も増えています。山形県もまた、外国人住民の増加が、人口を下支えしています。外国人に支えられているのは人口だけではありません。外国人を雇用する企業も、働く外国人も増え続けています。山形県では、在住外国人の半分以上が働いており、山形県の産業も外国人への依存度を高めていると言えます。つまり、好むと好まざるとに関わらず、外国人は増え同じ地域社会に暮らしています。外国人は「いつかは国に帰る人」ではなく、同じ地域社会に暮らし地域社会を支える存在となっているのです。

今、私たち日本人は意識の変革を迫られています。外国人を「ガイジン」と呼んで「よそ者」扱いするのではなく、どうすれば日本人も外国人もみんなが暮らしやすい社会になるのかをともに考え協力すべきです。意識を変えて受け入れ体制、支援体制を整えていかなければ、山形県は外国人に選ばれなくなり人口減少が加速することは明らかです。

では、どうすれば外国人と共に生きる社会を作ることができるでしょうか。受け入れ側の私たちに必要なのはどんなスキルでしょうか。本講座では「外国人の目を通して日本と日本語を知ること」、「外国人との違いに対する理解力・対応力を高めること」、「日本語のコミュニケーション力を磨くこと」を学びます。

【講座の構成】（1コマ=45分）　※詳細はチラシおよびホームページでご確認ください。

［第1部］　共生のための異文化理解（自文化に関する講座や国別の事例を学ぶワークショップなど全12コマ）

〇目的　・異文化を理解するとともに自文化に気づく体験をする
　　・文化摩擦の原因を自文化と相手文化から考えようとする姿勢が持てる
　　・他者の文化的アイデンティティと多様性を尊重できる

［第2部］　外国人から見る日本語（文法、音声、文字表記などを学ぶ全16コマ。全てオンデマンド型配信）

〇目的　・様々な角度から、母語としての日本語を客観的に見て分析する体験をする
　　・日本語の使用について内省できる力を身につける。

［第3部］　日本語力アップ（外国人とって分かりやすい「やさしい日本語」を学ぶ全12コマ）

〇目的　・相手に合わせて自分の日本語を調整して話したり書いたりすることができる

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【受講いただきたい対象】

・日本語教師になりたい人（教授経験が無い人・研修受講歴が浅い人）
・外国人とともに働く事業所の人（国際交流協会、自治体、企業など）
・外国人との交流に興味がある人

【講座の概要】　**※詳細はチラシおよびホームページでご確認ください。**

［期間］　2023年10月7日（土）から随時開講します
※リアルタイムで行われる講座の実施日時についてはホームページでご確認ください。

［受講料］　30,000円（全ての部を受講する場合）　※各部を単体で受講する場合は各12,000円

［対象］　社会人・学生（受講料の学生割引等はありません）

［定員］　30名（申込状況に応じて枠を増やす場合があります）

［詳細・申込］　https://www.y-ex.jp/extension/post-63.html
※上記リンクに講座を説明した10分程度の動画をアップしております。

【主催】　山形大学エクステンションサービス推進本部
YU-COE 移民社会における多文化共生研究拠点（第１部のみ）

【協力】　特定非営利活動法人ヤマガタヤポニカ

【後援】　なか東北連携 地域日本語教育専門人材養成協議会

お問い合わせ
エクステンションサービス推進本部（松田）
TEL：023-628-4779 メール：yu-extension@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

多文化共生スキルアップ講座

異文化理解と日本語コミュニケーション

どうすれば外国人と共に生きる社会を作ることができるでしょうか。受け入れ側の私たちに必要なのはどんなスキルでしょうか。山形大学では、外国人の目を通して日本を知ること、外国人との違いに対する理解力・対応力を高めること、日本語のコミュニケーション力を磨くことだと考え、本講座を企画しました。この講座を通して、外国人に対する理解を深め、多文化コミュニケーションを楽しめるようになりましょう。

第1部 共生のための異文化理解

目的
- 異文化を理解するとともに自文化に気づく体験をする
- 文化摩擦の原因を自文化と相手文化から考えようとする姿勢が持てる
- 他者の文化的アイデンティティと多様性を尊重できる

形態 【オンデマンド型】+【リアルタイムオンライン型】／全12コマ

第2部 外国人から見る日本語

目的
- 様々な角度から、母語としての日本語を客観的に見て分析する体験をする
- 日本語の使用について内省できる力を身につける

形態 【オンデマンド型】／全16コマ

第3部 日本語力アップ
ーやさしい日本語の使い手になろう！

目的
- 相手に合わせて自分の日本語を調整して話したり書いたりすることができる

形態 【リアルタイムオンライン型】／全12コマ

全国どこからでも受講可能

全ての講座をオンラインで開講!

※講義内容により、受講生が好きな時間に受講できる【オンデマンド型】と、Zoomミーティングを利用した【リアルタイムオンライン型】で行います。

2023 10/7（土）から順次開講!

こんな方におすすめの講座です

- 日本語教師になりたい人（教授経験が無い人・研修受講歴が浅い人）
- 外国人とともに働く事業所の人（国際交流協会、自治体、企業など）
- 外国人との交流に興味がある人

◆申込方法

下記のURLもしくはQRコードから、ホームページで各部の申込締切日や募集要項を必ずご確認ください。受講を希望する場合は、ホームページのリンクから専用フォームにアクセスし、必要事項をご記入の上、送信してください。

▶ https://www.y-ex.jp/extension/post-63.html

【山形大学エクステンションサービス推進本部】
023-628-4779
yu-extension@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学 Yamagata University　YEX Yamagata University Extension service organization

多文化共生スキルアップ講座

異文化理解と日本語コミュニケーション

第1部

共生のための異文化理解

外国人に対する理解を深めることを目指します。まずは、なぜ多文化理解が必要なのか、そもそも日本人と外国人の境界は存在するのか、地域にとって外国人はどんな存在なのかを考えます。続いて、日本に住んでいる外国人を理解するために、各国の文化・習慣について知り、トラブル解決のケーススタディを行います。第1部を通して、外国人を理解しようとする意識の醸成を目指します。

◆科目一覧

Part 1

自文化の理解と文化摩擦への対処

科目名	コマ数	講義形態
イントロダクション	2	オンデマンド
日本人とは？ −自文化への気づき−	4	オンデマンド
共に社会をつくる −避難所シミュレーション−	2	リアルタイム

Part 2 ※下記から2カ国を選択いただきます。

異文化オムニバス講座

科目名	コマ数	講義形態
モンゴル	2	座学 オンデマンド ＋ ワークショップ リアルタイム
中国	2	
ベトナム	2	
ミャンマー	2	

第2部

外国人から見る日本語

外国語と比べて、日本語にはどんな特徴があるでしょうか。また、外国人にとっては、日本語のどんなところが難しく、どんな間違いをよくするでしょうか。この講座では、日本語を母語としてではなく、外国人（非母語話者）の目を通して分析します。外国語として日本語を理解することは、外国人と日本語でコミュニケーションしてみる、外国人に日本語を教えるための第一歩になります。

◆科目一覧

科目名	コマ数	講義形態
文法	2	オンデマンド
音声	2	オンデマンド
文字表記	2	オンデマンド
語彙	2	オンデマンド
モダリティ	2	オンデマンド
語用論	2	オンデマンド
対照言語学 −日英中−	2	オンデマンド
第二言語習得	2	オンデマンド

第3部

日本語力アップ

やさしい日本語の使い手になろう!

日本に住んでいる外国人のうち、英語が公用語となっている国の出身者は12%弱（山形県は9%）にすぎません。「希望する情報発信言語」として「やさしい日本語」を選んだ人が76%を占めるという調査もあります。この講座では、日本語を母語としない外国人にとってわかりやすい日本語とはどういうものか、どのように自分の日本語をコントロールすればいいのかを実践的に学びます。

◆科目一覧

科目名	コマ数	講義形態
概論・講義 −外国人の日本語−	4	リアルタイム
実践（話す）	4	リアルタイム
実践（書く）	4	リアルタイム

オンデマンド

開講期間中、ご自身の都合にあわせて好きな時間に何度でも受講可能です。

リアルタイム

Zoomミーティングを使用した講座です。講義日時はホームページでご確認ください。

○1コマ45分（異文化オムニバス講座のワークショップのみ60分）
○第1～3部の全講義に出席し課題を提出した方には修了証を発行します

【 受講料 】

全ての部を受講する場合 **30,000円**

各部を単体で受講する場合 各**12,000円**

※支払手数料はご負担ください。

【 対象 】社会人・学生

※受講料の学生割引等はありません。

【 定員 】各部 30名

※申込状況に応じて、枠を増やすことがあります。

◆主催 ・山形大学エクステンションサービス推進本部
・YU-COE 移民社会における多文化共生研究拠点（第1部のみ）

◆協力 ・特定非営利活動法人ヤマガタヤポニカ

◆後援 ・なか東北連携 地域日本語教育専門人材養成協議会

山形大学 Yamagata University　YEX Yamagata University Extension service organization

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和５年（2023 年）９月７日

「日本百名山」で有名な深田久彌はなぜ樹氷（アイスモンスター・エビノシッポ）に造詣が深かったのか

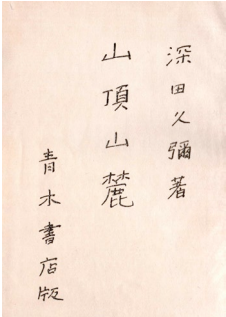
～　高山植物学者・登山家の濱田（田邊）和雄との交流　～

【本件のポイント】

●昭和５年頃、樹氷（アイスモンスター）が過冷却水滴と雪が一体化した「複合体」であることを見つけたのは武田久吉と濱田（田邊）和雄であった。

●深田久彌の戦前の著作にある「樹氷（アイスモンスター）」は「複合体説」であり「樹氷（アイスモンスター・エビノシッポ）」について造詣が深かった。

●深田久彌は、高校・大学・社会人を通じて濱田（田邊）和雄と交流があり、登山・スキーについて手ほどきを受けると共に、樹氷（アイスモンスター・エビノシッポ）についての知識を得ていた。



深田久彌　山頂山麓

【概要】

武田久吉（京都帝国大学講師）は大正９年頃から高山植物の生態を研究する中で高山植物への過冷却水滴の付着を観察していました。昭和５年頃に過冷却水滴と雪が一体化したものが樹氷（アイスモンスター）であることを見つけたのは高山植物学者・登山家である武田久吉と濱田（田邊）和雄（旧制松山高等学校教授）でした。深田久彌は、旧制第一高等学校の旅行部・東京帝国大学時代に先輩である濱田（田邊）和雄から登山・スキーの手ほどきを受けており、社会人になってからも山や樹氷について助言を受けるなど交流がありました。深田久彌の戦前の著作にある「樹氷（アイスモンスター）」の成因についての記述は「複合体説」であり、深田久彌は「樹氷（アイスモンスター・エビノシッポ）」についても造詣が深かったことが分かりました。

【１．これまでの経緯】

「樹氷（アイスモンスター）」の成因については雪が凍りついたとする「雪説」、過冷却水滴が凍りついたとする「過冷却水滴説」、過冷却水滴と雪が一体化して氷の塊となったとする「複合体説」がありました。「雪説」は「樹氷（アイスモンスター）」が発見された大正３年（1914 年）頃から言われており、昭和 10 年（1935 年）代の終り頃まで安齋徹（旧制山形高等学校教授）らによって推されていました。一方、武田久吉（京都帝国大学講師）は大正９年（1920 年）頃から高山植物の生態を研究する中で高山植物への過冷却水滴の付着過程が観察していました。昭和５年（1930 年）頃に過冷却水滴と雪が一体化したものが樹氷（アイスモンスター）である「複合体説」を見つけたのは高山植物学者・登山家である武田久吉と教え子の濱田（田邊）和雄（旧制松山高等学校教授）でした（注１，注２）。しかし、昭和 10 年（1935 年）代半ばころから東北帝国大学の加藤愛雄助教授らによって行われた航空機に対する着氷を防止する研究によって「過冷却水滴説」が提唱され、その説は 1940 年（昭和 15 年）代の終わり頃から 1960 年（昭和 35 年）代の終わり頃まで支持されていました。1968 年（昭和 43 年）から小笠原和夫（芝浦工業大学教授）によって行われた「蔵王の樹氷の総合研究」の中で、黒田大助（北海道大学教授）らの「蔵王の樹氷調査報告」により樹氷（アイスモンスター）が着氷（エビノシッポ）と着雪が焼結（一体化）してできる「複合体」であることが再提唱されて現在に至っています（表１）。

注１：学長定例記者会見（昭和 30 年３月）昭和初期に行われたアイスモンスター(樹氷)の研究資料を発見

注２：環境保全（令和３年）Vol.24, p77-81 濱田(田邊)和雄によるアイスモンスター(樹氷)の成因の解明
http://sci.kj.yamagata-u.ac.jp/~zao/documents/no24-05.pdf

（お問合せ先）
山形大学蔵王樹氷火山総合研究会　副会長
山形大学名誉教授　柳澤文孝（環境科学）
メイル　icemonster.white(at)gmail.com

なお、現在の「樹氷」には、過冷却水滴が凍結して氷となった「エビノシッポ」と、過冷却水滴と雪がオオシラビソ（アオモリトドマツ）上で一体化して氷の塊となった「複合体」である「アイスモンスター」の二種類があります。

さて、「日本百名山」で有名な深田久彌の戦前の著作にある樹氷（アイスモンスター）は「複合体説」でした。なぜ深田久彌は「樹氷」に詳しかったのか、なぜ「雪説」「過冷却水滴説」が主流であった当時に「複合体説」をとったのか経歴・交友関係等を調査しました。その結果、深田久彌は第一高等学校の旅行部と東京帝国大学の時代に先輩である濱田（田邊）和雄から登山・スキーの手ほどきを受けると共に、社会人になってからも交流があり山や樹氷についての知識を得ていたことが分かりました（表２）。

【２．深田久彌の著作における樹氷（アイスモンスター・エビノシッポ）についての記述】

戦前の深田久彌の著作では登山・スキー・濱田（田邊）和雄との交流・樹氷・蔵王について数多くの記述が残されています（表２　●３−１、●３−２、●６，●８−１、●８−２）。特に、「山頂山麓（青木書店　1942 年）」に掲載されている随筆「樹氷」から以下のことがわかります。

（１）「モンスタアと呼ぶのは針葉樹の樹氷のこと」「濶葉樹の樹氷がこれ又華やかに美しい・・・樹枝一ぱい花が咲いたやうな樹氷」

「アイスモンスター」の「樹氷」と「エビノシッポ」の「樹氷」が区別できた。

（２）「オホシラビソといふ針葉樹だが、それが枝もろとも雪と氷とにガンジがらめにされて」

「樹氷（アイスモンスター）」が氷と雪の「複合体」であることが理解していた。

（３）「本当の樹氷を見ようとするには、相当な高さの山に登らなければならぬ。しかもどこにでもあるといふものではない。樹氷の育つ場所には色々の條件がある。風あたり、湿度、樹の大きさなどが関係する。」

「樹氷（アイスモンスター）」の生成には特別な気象条件が必要であることを知っていた。

（４）「樹氷のこととなると眼のない同行の田邊君が」

高校・大学・社会人と濱田（田邊）和雄と交流があり、濱田（田邊）和雄が卒業研究・大学院で高山植物の生態を研究している過程で見つけた樹氷（アイスモンスター）が過冷却水滴と雪の「複合体」であることを聞いていた。

（５）「その方の研究をしている友人の説によると、これは霧氷と呼ぶべきだそうである。」

濱田（田邊）和雄と交流があって「樹氷」のことを教わっていた。しかし、濱田（田邊）和雄は「樹氷」を「霧氷」と呼ぶべきだとしているが、深田久彌は「樹氷」とよんでいる。

（６）「わが國で樹氷の名高いところは、後で述べる蔵王のほかに、八甲田山・八幡平・吾妻連山の一部、それからこれは大ていのスキーヤアの行く志賀高原の横手山の廣い頂上などが擧げられる。」

昭和 10 年（1935 年）頃までに見つかっていた日本国内で「樹氷（アイスモンスター）」が存在している地域について熟知していた。

（７）「どこかそこらの簡易なスキー場に行った位で、よく樹氷の寫眞を撮ってきたと云う人があるが、それはただ樹木に綺麗に雪が積もったといふだけで、樹氷でもなんでもないことがおおい、」

写真によっても「樹氷（アイスモンスター）」か否かの判定ができた。

【３．武田久吉・濱田（田邊）和雄・深田久彌について】

（１）　武田久吉（1883. 3. 2. −1972. 6. 7.）

武田久吉は英国の外交官であったアーネスト・サトウ（1843. 6. 30. −1929. 8. 26）の次男です。高山植物学者、日本山岳会創設した登山家であり、尾瀬の保護に尽力したことから「尾瀬の父」と呼ばれています。

大正 9 年（1920 年）には丹沢で霧が葉に凍りつく過程を、昭和 2 年（1927 年）には八ヶ岳で過冷却水滴から成る霧が樹枝や樹冠に吹きつけて結合する様子を観察していました（●１）。大正 15 年（1926 年）の卒業研究から濱田（田邊）和雄を個人的に指導しています。昭和 5 年（1930 年）に出版された「日本地理大系山岳編（改造社）」に蔵王の樹氷（アイスモンスター）の成因等について（写真は濱田（田邊）和雄）を記載しています（●２　図１）。なお、武田久吉と濱田（田邊）和雄は共編で、昭和 6 年（1931 年）に「高山植物写真図聚（梓書房）」を、1950 年（昭

和 25 年）に「日本高山植物図鑑（北隆館）」を出版しています。1961 年（昭和 36 年）に発行された「日本高山植物図鑑（北隆館）」の「学生版」は現在でも購入可能です。

（2）　濱田（田邊）和雄（1900. 5. 11.-1961. 11. 9.）

濱田（田邊）和雄は高山植物学者・登山家でした。早稲田大学海外調査の際にキリマンジャロで病死しました。

大正 9 年（1920 年）に旧制第一高等学校に入学して旅行部に所属して登山・スキーの活動を行っていました。大正 13 年（1924 年）に東京帝国大学理学部植物学科に入学しましたが、卒業後もたびたび旧制第一高等学校の旅行部を訪れ、山やスキーの引率指導をしていました（向陵誌、昭和 5 年、第一高等学校寄宿寮）。卒業研究・大学院で高山植物の生態を研究する過程で樹氷（アイスモンスター）が過冷却水滴と雪の「複合体」であることを見つけています（●4、●5、●7）。高校・大学の後輩である深田久彌とは高校・大学・社会人を通じて交流がありました。

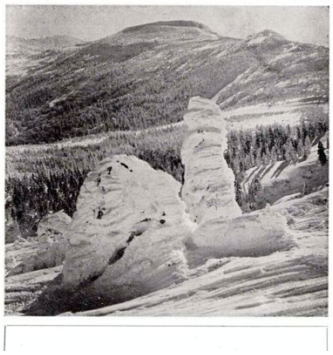
（3）　深田久彌（1903. 3. 11.-1971. 3. 21.）

深田久彌は「日本百名山（1964 年　新潮社）」で有名な登山家・随筆家です。

大正 12 年（1923 年）に旧制第一高等学校に入学し、旅行部の先輩や卒業生である濱田（田邊）和雄らから手ほどきを受けながら登山・スキーを始めました。大正 15 年（1926 年）に東京帝国大学文学部哲学科に入学しましたが、昭和 2 年（1927 年）に改造社に入社して、学生と社会人の二足のわらじとなりました。昭和 5 年（1930 年）には執筆活動優先のため大学・会社を中退・退社しています。社会人となってからも濱田（田邊）和雄との交流は続き、登山・スキー・樹氷についての助言を受けています。深田久彌の著作にある樹氷（アイスモンスター）の成因についての記述は「複合体説」でした。

【4．まとめ】

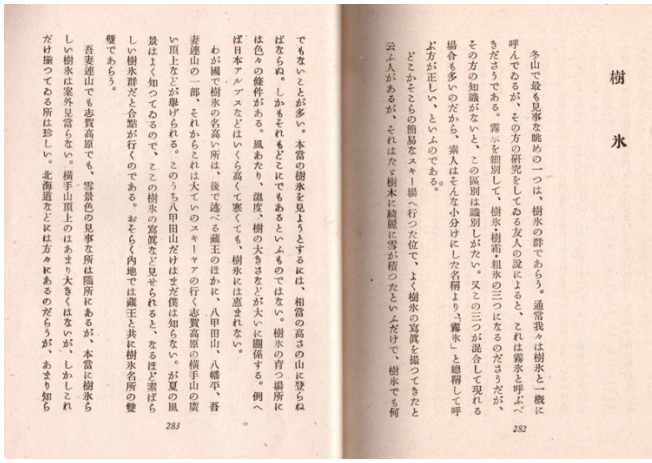
深田久彌の戦前の著作にある樹氷（アイスモンスター）の成因についての記述は「複合体説」であり、現在でも通用する内容でした。深田久彌は、旧制第一高等学校の旅行部と東京帝国大学の時代に先輩である濱田（田邊）和雄から登山・スキーの手ほどきを受けていました。濱田（田邊）和雄は卒業研究・大学院で高山植物の生態を研究する過程で樹氷（アイスモンスター）が雪と氷の複合体であることを見つけています。深田久彌は、社会人になってからも濱田（田邊）和雄から樹氷についての知識を得ることで樹氷（アイスモンスター・エビノシッポ）に詳しくなったことがわかりました。



（濱田和雄寫眞）

冬の杉ヶ峯　刈田岳下から見た杉ヶ峯の冬景色で、近く立つ石像の如きはヒメコマツに粉雪と霧氷とが厚い衣を被せたもの。中景の針葉樹は本ネシラビソで孤ち聳立した有様は西欧のクンツト思はせる。（武田久吉）

図１　冬の杉ヶ峰　日本地理大系（改造社　1930 年）



樹氷

冬山で最も見事な眺めの一つは、樹氷の群であらう。通常我々は樹氷と一概に呼んでゐるが、その方の研究をしてゐる友人の説によると、それは霧氷と呼ぶべきださうである。霧氷を細別して、樹氷・樹霜・粗氷の三つになるのださうだが、その方の知識がないと、この區別は識別しがたい。又この三つが混合して現れる場合も多いのだから、素人はそんな小分けにした名稱より、「霧氷」と總稱して呼ぶ方が正しい、といふのである。

どこかそこらの熊笹なスキー場へ行つた位で、よく樹氷の寫眞を描つてきたと云ふ人があるが、それはたゞ樹木に綿屑に雪が積つたといふだけで、樹氷でも何でもないことが多い。本當の樹氷を見ようとするには、相當の高さの山に登らねばならぬ。しかもそれもどこにでもあるといふものではない。樹氷の育つ場所には色々の條件がある。風あたり、濕度、樹の大きさなどが大いに關係する。例へば日本アルプスなどはいくら高くても、樹氷には惠まれない。

わが國で樹氷の名高い所は、後で述べる藏王のほかに、八甲田山、八幡平、吾妻連山の一部、それからとれは大ていのスキーヤアの行く志賀高原の横手山の廣い頂上などが擧げられる。このうち八甲田山だけはまだ僕は知らない。が夏の風景はよく知つてゐるので、ここの樹氷の寫眞などを見せられると、なるほど密ばらしい樹氷群だと合點が行くのである。おそらく内地では藏王と共に樹氷名所の雙璧であらう。

吾妻連山でも志賀高原でも、雪景色の見事な所は隣所にあるが、本當に樹氷らしい樹氷は案外見當らない。横手山頂上のはあまり大きくはないが、しかしこれだけ揃つてゐる所は珍しい。北海道などには方々にあるのだらうが、あまり知ら

282　283

図２　山頂山麓　深田久彌（1942 年）

表１　樹氷（アイスモンスター）についての成因説の変遷と深田久彌の戦前の著作

	1914 T3	～	1919 T9	～	1926 T15	～	1931 S5	～	1938 S13	～	1939 S14	～	1943 S18	～	1945 S20	～	1967 S42	1968 S43	～	現在
「雪　説」 安齋徹など																				
「複合体説」 武田久吉・濱田（田邊）和雄																				
「過冷却水滴説」 加藤愛雄																				
「複合体説」 黒岩大助																				
「複合体説」 深田久彌								わが山山 1934		山岳展望 1937		山頂山麓 1942								

表２　武田久吉・濱田（田邊）和雄・深田久彌に関する年表

		武田久吉 1883. 3. 2. -1972. 6. 7. 高山植物学者・登山家	濱田（田邊）和雄 1900. 5. 11. -1961. 11. 9. 高山植物学者・登山家	深田久彌 1903. 3. 11. -1971. 3. 21. 登山家・随筆家
1905	M38	日本山岳会創立		
1910	M43	王立理科大学・バーミンガム大学大学院		
1916	T5	東京帝国大学へ論文提出して理学博士取得		
1920	T9	丹沢で薬に霧が凍りつく過程を観察＊ 京都帝国大学講師	旧制第一高等学校（旅行部）	
1923	T12			旧制第一高等学校（旅行部・文芸部）
1924	T13	10月16日旧制第一高等学校で講演会＊＊	東京帝国大学理学部植物学科 旧制第一高等学校旅行部へたびたび指導・引率に行く＊＊	
1926	T15, S1	濱田（田邊）和雄の卒業研究等を個人的に指導	卒業研究（柴田桂太郎教授の研究室）	東京大学帝国大学文学部哲学科
1927	S2	八ヶ岳で植物への着氷を研究●１	東京帝国大学大学院	改造社に入社
1930	S5	日本地理大系　山岳編（改造社）●２	旧制松江高等学校の植物学の教授として赴任	執筆活動へ（退学・退社）
1934	S9			わが山山（改造社）●３－１，３－２
1935	S10			日本山岳会入会
1936	S11		霧氷（＊＊＊）の話●４	
1937	S12		思い出の山々●５	山岳展望（三省堂）●６
1940	S15		樹氷の話●７	
1942	S17			山頂山麓（青木書店）●８－１，８－２

＊　尾瀬の父、武田久吉博士の生涯（http://yanenonaihakubutukan.net/1/takedahisayosi.html）
＊＊　向陵誌、昭和5年（1930年）、第一高等学校寄宿寮（https://dl.ndl.go.jp/pid/1466015/1/1）
＊＊＊　樹氷を霧氷と呼ぶべきと主張

●１　吹けば舞ひ立つ粉雪が、どうして樹枝の表裏を全て包んでしまつたり、樹幹に膠着し得るのか？　という疑問を解決したかったからである。・・・それは甚だ簡単なプロセスで、降雪時に伴うて起る、過冷却した水滴から成る霧が、風のまにまに吹きつけて、樹枝や樹幹に触れる拍子に凍結し、それがセメントとなって同時に雪を結合するからなのである。　「冬山の八ヶ岳　雪庇（丸善）1937 年に収録」

●２　刈田岳下から見た杉ヶ峯の冬景色で、近く立つ石像の如きはヒメコマツに粉雪と霧氷（注：「樹氷」を「霧氷」とよぶべきだとしている）とが厚い衣を被せたもの、中景の針葉樹はオオシラビソで孤々独立した有様は西欧のタンネ（注：クリスマスツリーのようになっているもみの木）を思はせる。（武田久吉）　寫眞（濱田和雄）　「冬の杉ヶ峯　日本地理大系山岳編（改造社　1930 年）p98 に収録」（図１）

●３－１　僕がスキイを覚えたのは、高等学校へはひつた年の冬で、旅行部の人達に伴れられて妙高山麓の関温泉へ行った時が始めてだ。　「呼ぶ冬山　わが山山（改造社）1934 年に収録）」

●3−2　峩々温泉から蔵王を超えてきたといふ濱田和雄兄にここで数年ぶりに逢へたのも嬉しかった。この人は僕の最も尊敬する山男中の山男で、高等学校の時から僕はよくこの人に伴れられて山に行った。アザラシ会の連中でこの濱田先輩に引率されなかった者は一人も居まい。凄い山好きで、今は松江高等学校の植物の先生だが、９時に試験を済まして10時に汽車で山に飛んできたといふ熱心さだ。いい樹氷の寫眞が一枚撮りたくて毎冬蔵王へ詰めに来るのだといふ話。・・・吹雪になるとまるで見当違ひをするといふことを、昨晩も濱田さんが委しく説明していたところだった。　「吹雪く蔵王　わが山山（改造社）1934年に収録」

●4　羽翼状の樹氷の隙間に普通の雪が詰り、次の機会には更に其の上に樹氷を着けて行くらしく見える點もあります。樹氷と雪がとの混合物が出来上がるのが一番多いようであります。　「霧氷（注：「樹氷」を「霧氷」とよぶべきだとしている）の話（山　1936年　3巻　p24−29）」

●5　鳥の羽かエビの尻尾の様な形をした樹氷の隙間に、雪が詰まって来る。恐らく樹氷が出来たり雪が吹き付けられたり、又其の上に樹氷が一段と発達したり、段々と怪物化して来るのであらう。　「思い出の山々　雪庇（丸善）1937年収録）」

●6　高等学校へ入って間もなく、山男のＨ君の風貌が僕の注意をひいた。頭を茫々にして地下足袋か何かをつっかけ、背中にルックザックを背負ったかのやうに首を前に突き出し気味に、両肩に交々前後を揺すって、寮の中を徘徊しているこの上級生に、僕はひそかな親しみを感じた。やがてＨ君と口をきくやうになった・・・そのＨ君に連れられて始めて一緒に山に行ったのは五月小金澤山から大菩薩峠への尾根を歩いた時だが、その尾根の上に休んだ時、Ｈ君は遥かに見える南アルプスの峰々を一つ残らず片端から名差して聞かせた。僕は地図の裏にそれらの山の形と名を順々に書き取りながら、「これは大したものだ。」と感嘆と羨望の念に打たれた。・・・　「山岳展望　山岳展望（三省堂）1937年に収録」

●7　この怪物自身を樹氷と誤称している人もあり、又之を形成している材料が純粋な樹氷のみでもない。針葉樹では霧氷（注：「樹氷」を「霧氷」とよぶべきだとしている）と雪との混合物が梢にしっかりとしがみ付いて、更にその上から同様の混合物で樹木全体を締め付けて了う。恰も樹木全体を縄でぎりぎりに縛り上げて、夫れを砂糖で固めた様にして了ふのである。　「樹氷の話（旅　1940年　17巻　p44−45）」

●8−1　二度宮城県側の峩々温泉から入って、その清渓小屋に泊めてもらった。・・・二度とも友人の松江高等学校の植物の先生と一緒に行った。　「清渓小屋　山頂山麓（青木書店）1942年に収録）」

●8−2　冬山で最も見事な眺めの一つは、樹氷の群れであらう。通常我々は樹氷と一概に呼んでいる が、その方の研究をしている友人の説によると、これは霧氷と呼ぶべきだそうである。・・・どこかそこらの簡易なスキー場に行った位で、よく樹氷の寫眞を撮ってきたと云う人があるが、それはただ樹木に綺麗に雪が積もったといふだけで、樹氷でもなんでもないことがおおい、本当の樹氷を見ようとするには、相当な高さの山に登らなければならぬ。しかもどこにでもあるといふものではない。樹氷の育つ場所には色々の條件がある。風あたり、湿度、樹の大きさなどが関係する。・・・わが國で樹氷の名高いところは、後で述べる蔵王のほかに、八甲田山・八幡平・吾妻連山の一部、それからこれは大ていのスキーヤアの行く志賀高原の横手山の廣い頂上などが擧げられる。・・・大部分はオホシラビソといふ針葉樹だが、それが枝もろとも雪と氷とにガンジがらめにされて、思ひ思ひの風貌姿勢で突っ立ているさまは、見事と云はうか、奇怪と云はうか、まことにモンスタアとはうまく名づけたものである。・・・我々がモンスタアと呼ぶのは針葉樹の樹氷のことだが、濶葉樹の樹氷がこれ又華やかに美しい。樹氷のこととなると眼のない同行の田邊君が、パラダイスから西南の方に降りた所にこの濶葉樹の樹氷があると見当をつけていたので、そちらの方に強引に降りて行った。果たして素ばらしいい景色の中に入った。枝一ぱい花が咲いたやうな樹氷で飾られた濶葉樹が、あちらこちらにもゆらゆら枝を揺らしながら立っている。・・・（図２）「樹氷　山頂山麓（青木書店）1942年に収録）」

プレス通知資料（概 要）

令和５年(2023 年) ９月７日
山　　形　　大　　学

＊詳細は別添の資料をご覧ください。

１．山大クラブＪｒ.で一緒にバレーボールをしよう！～週１回の練習を通して、バレーボールの楽しさに触れよう～

「山大クラブＪｒ.」を立ち上げ、令和５年８月から活動を開始しております。

山形大学バレーボール部員及び指導員が、村山地区の中学生生徒を対象に、一緒にバレーボールを練習していくことを通して、個々の技能を伸ばすと共に、高いレベルに触れられることが出来るようにしていきます。

これからは、土日祝日の部活動が学校から離れ、地域スポーツクラブや民間団体が主体的になって活動を行っていくようになります。この活動は、これらの課題を解決していきたいという思いから発足したものであり、この活動を通して、地域貢献を行っていきます。

（会場）山形県立山形中央高等学校　第１体育館
（日程）毎週土曜日　午後５時 30 分～午後８時
（対象）村山地区　中学生生徒１～３年生　約４０名

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

山形大学
Yamagata University

令和５年（2023年）９月７日

山大クラブＪｒ.で一緒にバレーボールをしよう！

～週１回の練習を通して、バレーボールの楽しさに触れよう～

【本件のポイント】

- 山大クラブＪｒ.を立ち上げ、中学生に、一人ひとりの目的・技能に応じた練習の機会を提供する。
- 中学校の部活動の地域移行や、中学生のバレーボールの技術向上に貢献することが出来る。
- 学生が技術力や指導力、生徒との関わり方、向き合い方を学び、また、地域に貢献することが出来る。

【概要】

「山大クラブＪｒ.」を立ち上げ、令和５年８月から活動を開始する。
週１回、中学生に対して、練習の機会を提供する。指導者、大学生と共に、バレーボールを練習していくことを通して、個々の技能を伸ばすと共に、高いレベルに触れられることが出来るようにしていく。
これからは、土日祝日の部活動が学校から離れ、地域スポーツクラブや民間団体が主体的になって活動を行っていくようになる。この活動は、これらの課題を解決していきたいという思いから発足したものであり、この活動を通して、地域貢献を行っていきたいと考えている。

【背景】

土日祝日の部活動が学校から離れ、地域スポーツクラブや民間団体が主体的に活動を行うようになっていくこと。中学校部活の地域移行が進んでいること。

【活動内容】

山形大学バレーボール部員、指導員が、中学生生徒と一緒にバレーボールをし、バレーボールの楽しさを伝える。
（会場）山形県立山形中央高等学校　第１体育館
（日程）毎週土曜日　午後５時30分～午後８時
（対象）村山地区　中学生生徒１～３年生　約４０名

【期待される効果】

毎週の練習で中学生が様々な学校の生徒と練習し、大学生や指導スタッフから指導を受けることで、個々の資質と能力を存分に発揮するようになることが効果としてあげられる。一人ひとりの希望に沿った練習メニューを組み、要望に応えるように、毎回の練習で指導方法や内容を改善させていく。

また、山形市内全体のバレーボール技術の向上に繋がり、礼儀やマナーも身につけた中学生の育成に繋がることが期待される。

お問い合わせ
山形大学エンロールメント・マネジメント部学生支援課　齋藤
TEL　023-628-4840　　メール　yu-gakumu-cho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
山形大学女子バレーボール部　江口寧桜
TEL　023-628-4840　　メール　yamagatauniv.volleyf@gmal.com